

令和2年9月14日

防災避難訓練（書面）実施 防災関連の話

- 皆さん、こんにちは、校長の都丸です。本日は、新型コロナウイルス感染症防止対策により、防災避難訓練の実施訓練を行わず、皆さんには、放送で訓練の呼びかけをして、皆さん自身で地震発生時にどのような行動が必要かを想定してもらおうことといたしました。
- 今、皆さんは、地震を想像して、その際、どのような行動を取るべきかを頭の中でシミュレーションできたでしょうか。
- 今回は、地震発生時の訓練でした。皆さんは、平成27年3月11日の東日本大震災の時のことは、記憶にあるでしょうか。小学生だったと思います。
- 私は地震といえば、東日本大震災のことを思い出します。私自身は、横浜の関内というところにおりました。
- 当日、私は、春の高校選抜野球大会に出場が決まった高校の監督や選手たちと県庁の大会議場というところで県知事の到着をお待ちしていました。
- その時、突然、大会議場のシャンデリアが左右に揺れだし、そして大きく回りだしました。ハッキリ言ってその時は、とにかく「落ち着いてください」という声をかけるしかありませんでした。しばらくは地震の揺れの中で身を潜めていましたが、揺れが収まったところで急ぎ、監督と選手たちは、バスに乗って学校に戻ることになりました。
- 私もその報告のため、職場に戻ったのですが、職場のビルは立ち入り禁止の状況で、職場の仲間は、全てビルから出て外にいました。私は、取りあえず、自分の荷物を取りに行くことだけを許されたので、職場の部屋に向かおうとしましたが、ビル内はめっちゃめっちゃで、貯水タンクか、ポンプが壊れたのか、エレベーター内は滝のように水が上から流れ落ちており、使用できる状態にはなかったです。私は5階まで階段を使って部屋に入りました。
- 部屋の中は、ロッカーや棚が崩れ、椅子や机がぐちゃぐちゃに折り重なっていました。倒れたロッカーや机の上を歩いて何とか荷物をとり、外にでましたが、職場は悲惨な状態でした。
- 結局、職場には戻れず、仕事もできない状態ですので、帰宅することになりました。しかし、電車は全線がストップしていましたので、徒歩で帰宅するしかありませんでした。
- 家族も心配でしたが、中々電話やメールは繋がらない状態でした。後から知ったのですが、東北では、津波が発生しており、大変な被害がでていることだったので、まったく気が付きませんでした。
- 私自身も港に近いところにいたため、もし津波がきたら無事ではなかったと思います。

- 帰宅途中では、ビルの壁が落ちたところなどあり、とても悲惨な状況でした。もちろん帰れない人もいました。私は、5時間くらいかかって帰宅しました。とても怖かった記憶があります。
- この東日本大震災で岩手県の釜石市では、小中学生3千人のほとんどが助かり「釜石の奇跡」と呼ばれていることをご存知でしょうか。そのある地区では中学生が小学生の手を取って避難したことが称賛されたりもしています。しかし、これは奇跡ではなく、日ごろの津波・震災訓練によるものだとも言われています。
- また、東日本大震災においてのいち早く駆け付け、火災現場で大活躍し、称賛されたのが東京消防庁のハイパーレスキュー隊（消防救助機動部隊）です。この部隊は、有事に備えて屠龍の技（とりゅうのぎ）という中国の故事を念頭に日々訓練しているそうです。
- 「屠龍の技」とは、苦勞して龍を倒す技を学んだが、龍が存在しなかったため、その技を用いることがなかった。「学んでも実際には役立たない技術」ということなのですが、実際には、もしも龍が現れたら一撃のもとに倒すため、要するに、ありえないことであっても、「もしも」ということを想定して日々真剣に、救助等の訓練をしているとのこと。だから有事において活躍できたと言われています。
- 毎年行っているこの防災訓練ですが、「もしも」のことを想定して実施しているわけです。しかし、自然災害は、「もしも」ではなく、現実に行っていることが多くなっています。
- 訓練を軽視することなくしっかりと取り組んでもらいたいと思います。また、実際に災害が起こった時は、まず、自分の命を守ることを考えてもらいたいと思います。私からの話は以上です。